

共立女子大学大学院 家政学研究科 人間生活学専攻 カリキュラムマップ

NO.	科目区分	科目コード	科目名称	配当年次	単位数	到達目標	DP1-1 客観性・自律性・学識と倫理	DP1-2 客観性・自律性・主体的判断力	DP2-1 課題発見・解決力・社会的役割	DP2-2課題発見・解決力・課題解決力	DP3リーダーシップ
1	人間生活論領域	2100101	身体機能論Ⅰ（病態生理研究）	1	2	最新の科学的文献から必要な知識を理解し、実験法、実証統計法を理解することができる。	○	○	◎	◎	○
2	人間生活論領域	2100102	身体機能論Ⅱ（物質代謝研究）	1	2	1.がんや糖尿病性血管障害などの生活習慣病について総合的に理解し、その病態について学術的に説明することができる。 2.がんや糖尿病性血管障害などの最先端の話題について関心を持ち、自分の考えについて説明することができる。 3.がんや糖尿病性血管障害などの生活習慣病について、病態とその防御に関して深く議論することができる。	○	○	◎	◎	○
3	人間生活論領域	2100103	身体機能論Ⅲ（健康科学研究）	1	2	集団や地域における公衆栄養活動の関する研究を行うにあたり、公衆栄養マネジメントサイクルに対応した方法論である疫学的手法が修得できるようになる。	◎	○	◎	◎	◎
4	人間生活論領域	2100104	身体機能論Ⅳ（応用生理研究）	1	2	1.解剖生理学、病理学に関する英語論文を理解できる。一般英語の読解力のめりならず、専門用語も80%以上理解できる。 2.身体機能に関する先進的な研究について、批判的に評価し、自らの研究に生かすことができる。 3.栄養学や医学の広い範囲の英語の研究論文を自ら探索し、幅広い教養を身に付けることができる。	○	○	◎	◎	○
5	人間生活論領域	2100165	生活主体者論Ⅰ（人間形成研究）	1	2	1.乳児期から児童期の発達および発達臨床的課題に関心を持ち、文献研究を通して問題の所在を説明し、自ら研究課題を見出すことができる。 2.乳児期から児童期の発達及び発達臨床学における諸理論を理解し、実際の事例について理論的に説明することができる。 3.社会体系のさまざまな理論の変遷を踏まえた上で、「学」としての今日の社会福祉を総合的に理解できるようになる。 2.研究者・実践家としての高度な専門性を総合的に修得することができる。 3.研究者・実践家としての倫理観と社会性を総合的に習得することができるようになる。	◎	○	◎	◎	○
6	人間生活論領域	2100166	生活主体者論Ⅱ（児童福祉研究）	1	2	1.乳児期から青年期までの人間形成に関する諸理論を十分に理解することができる。 2.当該領域の最新の研究動向を探索的にレビューすることができる。 3.先行研究のレビューをもとに、当該研究領域において各自が関心を有する研究テーマについて問題の所在を批判的思考力に基づいて説明することができる。	◎	○	◎	◎	◎
7	人間生活論領域	2100167	生活主体者論Ⅲ（人間発達研究）	1	2	1.発達心理学から発達科学への変遷について説明できる。 2.発達科学に関する国内外の最新の研究動向に関する情報を収集することができる。 3.各自の研究関心を具体的に説明し、「発達科学」の最新の研究動向に位置づけることができる。 4.近年の発達科学のにおける題を見出すことができる。 「住環境の改善」に求められる必要条件には、環境条件や社会条件、経済条件、技術条件など相反する条件が関係するが、これらの条件についてうえで説明することができる。実際の建築計画や地域計画のなかで研究・評価できるようになる。 1.都市・農村化社会における建築や都市の変遷について基礎的な概念を具体的に述べるようになる。 2.建築やまちづくりにおける諸課題を解決していくための基となる能力を養うことができるようになり、論理的に考察、判断する能力を育成することができるようになる。 3.最終的に、より質の高い快適な環境を計画、デザインすることができるようになる。	○	○	◎	◎	○
8	人間生活論領域	2100114	生活主体者論Ⅳ（発達科学研究）	1	2	1.発達心理学から発達科学への変遷について説明できる。 2.発達科学に関する国内外の最新の研究動向に関する情報を収集することができる。 3.各自の研究関心を具体的に説明し、「発達科学」の最新の研究動向に位置づけることができる。 4.近年の発達科学のにおける題を見出すことができる。 「住環境の改善」に求められる必要条件には、環境条件や社会条件、経済条件、技術条件など相反する条件が関係するが、これらの条件についてうえで説明することができる。実際の建築計画や地域計画のなかで研究・評価できるようになる。 1.都市・農村化社会における建築や都市の変遷について基礎的な概念を具体的に述べるようになる。 2.建築やまちづくりにおける諸課題を解決していくための基となる能力を養うことができるようになり、論理的に考察、判断する能力を育成することができるようになる。 3.最終的に、より質の高い快適な環境を計画、デザインすることができるようになる。	○	○	◎	◎	○
9	人間生活論領域	2100168	生活文化論Ⅰ（発達環境研究）	1	2	1.発達心理学から発達科学への変遷について説明できる。 2.発達科学に関する国内外の最新の研究動向に関する情報を収集することができる。 3.各自の研究関心を具体的に説明し、「発達科学」の最新の研究動向に位置づけることができる。 4.近年の発達科学のにおける題を見出すことができる。 「住環境の改善」に求められる必要条件には、環境条件や社会条件、経済条件、技術条件など相反する条件が関係するが、これらの条件についてうえで説明することができる。実際の建築計画や地域計画のなかで研究・評価できるようになる。 1.都市・農村化社会における建築や都市の変遷について基礎的な概念を具体的に述べるようになる。 2.建築やまちづくりにおける諸課題を解決していくための基となる能力を養うことができるようになり、論理的に考察、判断する能力を育成することができるようになる。 3.最終的に、より質の高い快適な環境を計画、デザインすることができるようになる。	○	◎	○	◎	○
10	人間生活論領域	2100128	生活文化論Ⅱ（生活環境形成研究）	1	2	1.発達心理学から発達科学への変遷について説明できる。 2.発達科学に関する国内外の最新の研究動向に関する情報を収集することができる。 3.各自の研究関心を具体的に説明し、「発達科学」の最新の研究動向に位置づけることができる。 4.近年の発達科学のにおける題を見出すことができる。 「住環境の改善」に求められる必要条件には、環境条件や社会条件、経済条件、技術条件など相反する条件が関係するが、これらの条件についてうえで説明することができる。実際の建築計画や地域計画のなかで研究・評価できるようになる。 1.都市・農村化社会における建築や都市の変遷について基礎的な概念を具体的に述べるようになる。 2.建築やまちづくりにおける諸課題を解決していくための基となる能力を養うことができるようになり、論理的に考察、判断する能力を育成することができるようになる。 3.最終的に、より質の高い快適な環境を計画、デザインすることができるようになる。	○	○	◎	◎	○
11	人間生活論領域	2100123	生活文化論Ⅲ（生活デザイン研究）	1	2	1.発達心理学から発達科学への変遷について説明できる。 2.発達科学に関する国内外の最新の研究動向に関する情報を収集することができる。 3.各自の研究関心を具体的に説明し、「発達科学」の最新の研究動向に位置づけることができる。 4.近年の発達科学のにおける題を見出すことができる。 「住環境の改善」に求められる必要条件には、環境条件や社会条件、経済条件、技術条件など相反する条件が関係するが、これらの条件についてうえで説明することができる。実際の建築計画や地域計画のなかで研究・評価できるようになる。 1.都市・農村化社会における建築や都市の変遷について基礎的な概念を具体的に述べるようになる。 2.建築やまちづくりにおける諸課題を解決していくための基となる能力を養うことができるようになり、論理的に考察、判断する能力を育成することができるようになる。 3.最終的に、より質の高い快適な環境を計画、デザインすることができるようになる。	○	○	◎	◎	◎
12	人間生活論領域	2100129	生活文化論Ⅳ（人間空間デザイン研究）	1	2	1.発達心理学から発達科学への変遷について説明できる。 2.発達科学に関する国内外の最新の研究動向に関する情報を収集することができる。 3.各自の研究関心を具体的に説明し、「発達科学」の最新の研究動向に位置づけることができる。 4.近年の発達科学のにおける題を見出すことができる。 「住環境の改善」に求められる必要条件には、環境条件や社会条件、経済条件、技術条件など相反する条件が関係するが、これらの条件についてうえで説明することができる。実際の建築計画や地域計画のなかで研究・評価できるようになる。 1.都市・農村化社会における建築や都市の変遷について基礎的な概念を具体的に述べるようになる。 2.建築やまちづくりにおける諸課題を解決していくための基となる能力を養うことができるようになり、論理的に考察、判断する能力を育成することができるようになる。 3.最終的に、より質の高い快適な環境を計画、デザインすることができるようになる。	○	○	○	◎	○
13	人間生活論領域	2100125	生活文化論Ⅴ（生活環境研究）	1	2	1.発達心理学から発達科学への変遷について説明できる。 2.発達科学に関する国内外の最新の研究動向に関する情報を収集することができる。 3.各自の研究関心を具体的に説明し、「発達科学」の最新の研究動向に位置づけることができる。 4.近年の発達科学のにおける題を見出すことができる。 「住環境の改善」に求められる必要条件には、環境条件や社会条件、経済条件、技術条件など相反する条件が関係するが、これらの条件についてうえで説明することができる。実際の建築計画や地域計画のなかで研究・評価できるようになる。 1.都市・農村化社会における建築や都市の変遷について基礎的な概念を具体的に述べるようになる。 2.建築やまちづくりにおける諸課題を解決していくための基となる能力を養うことができるようになり、論理的に考察、判断する能力を育成することができるようになる。 3.最終的に、より質の高い快適な環境を計画、デザインすることができるようになる。	○	○	◎	◎	○
14	人間生活論領域	2100169	生活文化論Ⅵ（表現文化研究）	1	2	1.発達心理学から発達科学への変遷について説明できる。 2.発達科学に関する国内外の最新の研究動向に関する情報を収集することができる。 3.各自の研究関心を具体的に説明し、「発達科学」の最新の研究動向に位置づけることができる。 4.近年の発達科学のにおける題を見出すことができる。 「住環境の改善」に求められる必要条件には、環境条件や社会条件、経済条件、技術条件など相反する条件が関係するが、これらの条件についてうえで説明することができる。実際の建築計画や地域計画のなかで研究・評価できるようになる。 1.都市・農村化社会における建築や都市の変遷について基礎的な概念を具体的に述べるようになる。 2.建築やまちづくりにおける諸課題を解決していくための基となる能力を養うことができるようになり、論理的に考察、判断する能力を育成することができるようになる。 3.最終的に、より質の高い快適な環境を計画、デザインすることができるようになる。	○	○	◎	◎	○
15	人間生活論領域	2100171	生活文化論Ⅶ（生活道具研究）	1	2	1.生活道具の歴史・文化・デザイン理論に関する高度な学識をもとに、多角的・批判的に分析し、研究倫理を踏まえて適切に論述できる。 2.道具と生活環境の関係を自律的に捉え直し、既存の枠組みに依らない視点から課題設定と判断ができる。 3.生活道具をめぐる現代的課題を社会的文脈に位置づけ、社会還元を視野に提案できる。 4.独創的視点から課題を発見し、理論と実践の往還を通じて実現可能な解決案として提示できる。 5.専門性を基盤に他者と協働し、研究・制作を主導して責任ある行動ができる。	○	○	◎	◎	○
16	人間科学領域	2100131	食生活素材論Ⅰ（食品素材研究）	1	2	1.食品の第三次機能について、各国の許認可制度を含めて総合的内容を説明できる。 2.機能分析手法について、学部学生、修士学生に説明できる。	◎	○	○	◎	○
17	人間科学領域	2100170	食生活素材論Ⅱ（食品機能研究）	1	2	1.食品の第三次機能について、各国の許認可制度を含めて総合的内容を説明できる。 2.機能分析手法について、学部学生、修士学生に説明できる。	○	○	◎	◎	○
18	人間科学領域	2100133	食生活素材論Ⅲ（食品微生物研究）	1	2	1.微生物の発酵食品の製造方法について、最新の知見を織り交ぜて食品ごとに具体的に説明できる。 2.微生物を用いた物質生産について、最新の知見を織り交ぜて物質ごとに具体的に説明することができる。 3.微生物汚染の防除方法について、最新の知見を織り交ぜ微生物の生態を踏まえて具体的に説明することができる。 4.微生物による物質生産に関する専門書や論文を読んで理解し説明できる。	◎	○	○	◎	○
19	人間科学領域	2100134	食生活素材論Ⅳ（食品物理化学研究）	1	2	1.食品テクスチャーの他の専門書や論文を読んで理解できる。 2.食品の物理性の決定について理解し、例を挙げて説明できる。 3.嚥下困難者用介護食の基準や求められるテクスチャーに関して説明できる。	◎	○	○	◎	○
20	人間科学領域	2100141	衣生活素材論Ⅰ（被服素材研究）	1	2	1.最新の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明することができる。 2.繊維の繊維構造に関して、すでに知られていることを把握した上で、未解決問題について説明し、今後の展望について予測を述べることができる。	○	◎	○	◎	○
21	人間科学領域	2100142	衣生活素材論Ⅱ（被服管理研究）	1	2	1.最新の学術論文を精読し、その内容を正確に理解した上で、簡潔にまとめ、プレゼンテーションすることができる。 2.染織品の保存や繊維製品の管理に関して正しく理解し、実際の染織品を適切に管理するための課題を見出し、解決方法を自ら提案することができる。	○	◎	○	◎	○
22	人間科学領域	2100143	衣生活素材論Ⅲ（被服機構研究）	1	2	1.学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。 2.1被服-環境の関係を正しく理解し、説明できる。 3.評価方法や分析方法を理解し、目的に合わせて的確に分析することができる。	◎	○	◎	◎	○
23	人間科学領域	2100153	食生活計画論Ⅰ（調理設計研究）	1	2	1.調理学関連の研究例を体系的かつ理論的に説明できる。 2.調理学関連の研究テーマを自ら決定し、資料調査・考察し、英語で発表できる。	○	◎	○	◎	○
24	人間科学領域	2100154	食生活計画論Ⅱ（栄養教育研究）	1	2	1.理論的基礎と研究を遂行していく上で必要な諸技術、知見を理解して、説明できる。 2.情報収集及び調査データの分析ができる。 3.論文を書くことができる。	○	◎	○	◎	○
25	人間科学領域	2100155	食生活計画論Ⅲ（給食経営管理研究）	1	2	1.給食経営管理関連の研究例を体系的かつ理論的に説明できる。 2.給食経営管理関連の研究テーマを自ら決定し、資料調査・考察し、総合的に発表することができる。	○	○	○	◎	◎
26	人間科学領域	2100161	衣生活計画論Ⅰ（服飾文化研究）	1	2	1.衣履に関する学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。 2.衣履の生理的・形態的・機能的変化を正しく理解し、衣履の変遷を説明できる。 3.「小袖」「着物」の実物調査や分析の方法を理解し、目的に合わせて的確に分析することができる。	○	○	○	◎	◎
27	人間科学領域	2100162	衣生活計画論Ⅱ（被服心理情報研究）	1	2	1.被服心理学に関する基本的知識を身につけ、主体的に研究を進めることができるようになることを目的とする。具体的到達目標として、以下の2点を挙げる。 1.被服心理学の研究手法を理解し、先行研究の内容を十分理解し、その概要を説明できるようになる。 2.被服心理学の研究手法を理解した上で、仮説検証のための調査設計、実行、結果の分析ができるようになる。	○	◎	○	○	◎
28	人間科学領域	2100163	衣生活計画論Ⅲ（被服造形研究）	1	2	1.学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。 2.人体の生理的・形態的・機能的変化を正しく理解し、説明できる。 3.評価方法や分析方法を理解し、目的に合わせて的確に分析することができる。	◎	○	○	◎	○
29	人間科学領域	2100164	衣生活計画論Ⅳ（被服情報工学研究）	1	2	1.ファッションプロダクトのサプライチェーンやファッション関連サービスにおける技術課題を多面的に検討して理解し、客観的、かつ、正確に説明ができる。 2.コンピュータグラフィックス、コンピュータビジョン、マシンラーニング等の先進事例を調査する方法を修得し、実際に調査した結果を俯瞰的に整理して学術的な成果としてまとめることができる。 3.当該分野の専門家と円滑なコミュニケーションができ、研究を進展させることができる。 4.ファッションプロダクトのサプライチェーンやファッション関連サービスにおける課題の解決に向けて、情報技術を活用した具体的な解決方法を提案して新しい価値を創出できる。	○	◎	○	◎	○